

やくも

くりみ
べにはながたみ

か

八雲たつ 秋の森山 果を保ち 採りし栗実に 紅花筐

令和七年九月九日

大中臣正比呂



竹べらで越栗いがぐりを剥いて籠に詰めて家に帰る道で、黃變かこうしつつあつた紅葉もみじの一枝た おを手折たたきつて入れた。そんな情景が浮かぶ古代の出雲の地は穏やかであつたろう。

この地は自然の恵みも豊で「森山」の姓が多い。同家紋の彼女とは、古代でも出会つたのかもしれない。そんな直感は諸兄にもあることだろう。

古代出雲の地には、時折り朝鮮半島から渡来人が交易に来る港があつた。伽耶か やからは北上する対馬海流つしまに乗つて鉄の文化が渡つて来る。

それが奥出雲に「たら製鉄」が伝わつたのであろう。